

都上りの歌！天つ都を目指しつ
つ、きょう、詩篇一二七篇を共に
口ずさみましよう。本篇は二節と
三節の行間で二つに分けられます。
しかし、霊的な思想は一貫してい
ます。前半は、「主が家を建てる
のでなければ」全ては空しく、後
半は、「主が家を建てられると」、
全てが祝福されると歌うのです。

主が家を建てるのでなければ

玄関前の美しい庭先に「主が家
を建てられるのでなければ、建て
る者の勤労はむなし」(口語訳)
のみことばを石に刻み、近隣の
方々や友人知人を集め、聖書研究
や福音の集いを開いているご夫妻
がおられます。この家は主ご自身
が建てられた、と感謝の思いを抱
いて主に仕えておられるのです。
それは、目に見える家屋のみなら
ず、家庭を築くことも、外での勤
労も全て主が働いてくださらな
ければ、その働きは空しいとの信仰
の表明でもあるのです。

一節には「主が家を建てるので
なければ」、「主が町を守るので
なければ」と二つの仮定法が出て
きます。家庭を築き町を守ること
も、そこに主が臨在し、主が働か
なければ、全ては空しいという
のです。どんなに早く起き、遅く
休み、労苦の糧を食べたとしても
全ては徒労に終わるといいます。

ひと頃、企業戦士とかエコノミ
ック・アニマルという言葉が流布
されました。どんなに汗水流して
働いてもむなしさが残る。家庭は
崩壊する。そうした悲哀を味わっ
ている人々をしばしば目にします。
ですから、主が家を築くこと、主
が町を守られることをモットーに、
ベンジャミン・フランクリンは、
祈りをもってアメリカ議会の始め
ることを提唱し、エジンバラ市は
この聖句を市の標語にしていると
聞きました。

私達も、内における家庭生活、
外における社会生活において、主
が働かれ、主が祝福されるように
個人や家庭生活の中で、「祈りの
祭壇」を築きたいものです。

日々の聖書通読、デボーション、
週ごとの主日礼拝はいかがですか。
私の長兄と母は熱心なクリスチャ
ンでしたので、家庭礼拝を厳格に
守りました。多い時には十人近い
家の者が一つテーブルを囲み、聖
書を開き、歌い、祈るのです。わ
ずか十分から十五分、それが工藤
一族の祝福の源となりました。長
兄は、早朝、出勤前、職場、帰宅
後など良く祈っていました。です
から主の祝福は、家庭や職場に豊
かにあらわされたのです。

二節をごらんになると「実に
主は愛する者に眠りを与えてくだ
さる」とあります。主が与えてく
ださる眠り、安息です。主は愛す

るものに眠りを与え、眠っている
中でも、作物を育て、家畜を養っ
てくださるのです。「動中の静、
静中の動」という言葉をご存知で
しょう。どんなに動き回って
いても静かな心がある。静かな安息
の中で物事が動くというのです。

由木康先生の讚美歌をご存知で
しょう。「この世の務めいとせわ
しく、人の声のみしげきときに、
内なる宮にのがれゆきて、我は聞
くなり主のみ声を」(讚美歌313)。
まさに動中の静です。主が愛する
者に与えられる安息です。またフ
ァニー・クロスビーは歌いました。
「ああ嬉し、我が身も主のものとな
りけり、浮世だにさながら、天つ世
の心地す」(讚美歌529)。全く主
に委ね、まかせきる静けさの中で、
主はご自身のみわざを進められる
のです。「陰極まれば陽となり、陽
極まれば陰となる」と言われると
おりです。私たちが己れに死に切
れば、主は生きてくださり、主が
生きて働かれれば、私たちは生き
ないでもすむというのです。

主が家を建てられると

後半の三節以下をご覧ください。
ここに主が家を建てられるとき
の祝福が目に見えるように描か
れています。私たちが「祈りの祭
壇」を築き、主を第一にすると
き、主は私たちの家庭をこれほど
に祝福してくださるのです。

「見よ 子どもたちは主の賜物
/胎の実は報酬」とあります。まさ

に子どもたちは主からのプレゼント
です。何にもまさる賜物です。
その子どもたちの声が響き渡る
家庭、今、子どもが胎に与えられ
た夫婦もおられることでしょう。
山上憶良は「白銀(しろがね)も
黄金(くがね)も珠玉(たま)も何
かせん、まされる宝、子にしかめ
やも」と歌いました。まさに配
偶者も神からの賜物、その子ら
も神からの賜物、子どもたちは
「勇士の手にある矢のよう」に
頼もしい。

これは家庭の繁栄と祝福だけ
ではなく、教会という「神の家族」
の祝福であります。「幸いなこと
よ 矢筒をその矢で満たしている
人は」とあるように、私たちの
教会に子どもたちという矢がい
っぱい満ちるように祈りましょ
う。その子らの歌声は天のみく
らいに届き、また悪魔を震えお
のかせませぬ。その子らが成長
すると悪の勢力を撃破し、福音
のみわざは前進するのです。ど
うか、主が私たちの教会に「勇
士の手にある矢」のような幼児
、児童、青少年を満ちしてくだ
さるように切に祈ろうではありません
か。

新型コロナウイルス感染拡大
の中で、在宅共同礼拝が続きます。
このステイホームの生活様式を
今こそ生かしましょう。そして
この都上りの歌のように、主が
家庭を築き上げ、主が共同社会
を守り、主が安息を与え、主が
全てのことの中で全てとなって
くださるよう祈り求めようでは
ありませんか。